

# 日本生体医工学会 2020 年度第 3 回理事会議事録

日時：令和 3 年 1 月 25 日(月) 14:00～17:00

会場：ME 試験事務局内 会議室 (CE コーポレーション)

## <出席者>

理事長： 守本 祐司  
副理事長： 木村 裕一  
理事： 横澤 宏一、山家 智之、中島 章夫

## <Web 出席者>

副理事長： 成瀬 恵治  
理事： 川田 徹、平田 雅之、松田 哲也、井村 誠孝、中島 一樹、坂田 泰史、  
松村 泰志、原口 亮、福岡 豊、村垣 善浩、黒田 知宏、  
塩澤 成弘、杉町 勝、椎名 毅 (兼 2021 年大会長)  
監事： 吉田 正樹、中沢 一雄

## <オブザーバー・出席者>

幹事： 坪子 侑佑、木村 雄亮  
事務局長： 磯山 隆  
オブザーバー： 清水 久恵(北海道支部長)、杉原 伸宏 (甲信越支部長)、  
長谷川 純一(東海支部長)、家入 里志 (九州支部長)、嶋津 秀昭(北陸支部長)

## <欠席者>

理事： 佐久間 一郎 (兼 関東支部長)  
監事： 澤 芳樹  
オブザーバー： 芳賀 洋一 (東北支部長)、大城 理 (関西支部長)、石原 謙 (中国・四国支部長)

## <理事会議題>

### 0. 理事会成立の件 守本理事長

定款 34 条 2 項に則り、理事総数 21 名の 1/2 にあたる定足数 10 名を超える 20 名の出席と監事 2 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

### 1. 2020 年度 第 2 回目理事会の議事録の承認【審議】 山家理事

2020 年度 第 2 回理事会議事録案の内容について、全会一致で承認された。

### 2. 2020 年度各委員会の委員の承認【審議】 山家理事

2020年度の各委員会について、未決であった編集委員会の委員構成について全会一致で承認された。

### 3. 生体医工学テキスト、Web用語集の進捗状況【報告】 平田理事

生体医工学テキスト「医療に活かす生体医工学」が出版された旨が報告された。また、生体医工学 web 用語辞典について、3月末の執筆完了に協力いただきたい旨が報告された。本件の期限などについてリマインド発信の要請があった。用語辞典について、執筆者が原稿をアップロードできない問題が報告されたが、それに対してシステムのアップグレードが既に完了しており動作確認済みである旨が報告された。また、編集システムの使用方法に関する問い合わせ先を周知する必要がある旨が報告された。

### 4. 東海支部規約改正について【審議】 長谷川東海支部長

2020年度支部総会（2020年10月24日開催）において、支部規約への下記内容の追記が承認された。

- ・支部の事業に「支部大会の開催」を追加
- ・支部顧問に関する条項を追加
- ・支部長の最長任期と役員の定年を明記

本支部規約改正案について、全会一致で承認された。本改正規約は、2021年1月25日より発行される。

### 5. 2021年度 ME2種・1種試験の実施予定、及び試験を中止した場合に伴うキャン

#### セル料支払いの件【審議】 中島 章夫理事

2021年度の第1種 ME 試験の試験及び講習会の実施予定、第2種試験の実施予定について報告された。第1種試験はオンライン開催予定であり、既に広報や見積りの依頼を行っている。オンライン開催に際して、カンニング防止用カメラのレンタルなどの理由から最大受験可能人数は1000人となる。講習会についてもオンラインでの半日程度の開催を予定している。第2種試験については、受験者数が6000人を越える事が想定されオンライン試験を実施可能なシステムが現状存在しないため、従来通り現地開催を予定している。従来は大学等教育機関を利用していたが、本年度は感染症対策などの理由で予約困難のため、民間施設を使用する事とした。会場費は、東京の3会場（ベルサール渋谷、ベルサール虎ノ門、ベルサール新宿）は1200万円、大阪会場（コングレコンベンションセンター）は400万円（振り込み期限が1月末であったため既に振り込み済）、その他地方会場は大学のキャンパス等を借りる事として費用は700万円となる。

続いて、各 ME 試験の受験料の値上げに関して報告された。2021年度より、以下のごとく受験料の増額を検討している（技術委員会内では既に承認済み）。

・第1種試験受験料収入：750万円

(内訳：全内容受験者の受験料 22000円、半分受験者の受験料 13000円、受験者数 400名)

・第2種試験受験料収入：8550万円

(内訳：受験料 15000円、受験者数 5700名)

本件について、受験料を15000円とする妥当性について議論され、会場費増、受験者数減、及び会場数増に伴う人件費増額の観点から合理的な値上げであるとして全会一致で承認された。

続いて、試験中止時のキャンセル料について報告された。第2種試験が新型コロナの影響により中止となり会場をキャンセルした場合、以下の費用が発生する。

・大阪会場：90日前までは50%、それ以降は100%(上記の通り会場費400万円は支払い済み)

・東京の3会場：50%(600万円)(2月末までに支払い)

上記費用の支払いに基金の切り崩しが必要になった際、試験事業費から支出したい旨が報告された。従来、東京会場は大学のキャンパスを利用していたため手付金は不要でかつ受験料収入の後の会場費支払いが可能であったが、2021年度は東京会場の民間会場費の残り50%について1か月前(8月中)までに支払う必要がある。また、試験問題作成、審議の人件費や事務運用費も追加で発生する。

本件について、試験事業費の切り崩しについて全会一致で承認された。また、上記赤字が発生した場合、教育試験事業積立基金の中から補うべきだという意見が出された。また、緊急事態宣言により一部地区での実施が不可能な場合、全会場で試験を実施しない方針が報告された。また、感染対策に関する費用計上について議論が行われた。

以上より、事務局費用や感染対策費を含めた支出を再計上した上で、次回理事会で費用裁定を行う事で決定した。また、感染対策を含めた実施試験マニュアルの作成を進めていく旨が報告された。受験料の支払い方法について、現状は事務局からの請求書により払い込みを行っていたが、本年度よりクロネコヤマトの収納代行システムを導入する予定である旨が報告された。

## 6. 第60回日本生体医工学会大会の準備状況について【報告】 椎名理事

第60回日本生体医工学会大会の準備状況について報告された。現状は現地開催の準備を進めているが、COVID-19の感染状況に対応するためハイブリッド開催も検討している。一方、会場となる「みやこめっせ」から、1月末までの使用会場確定の要請があった。よって、現地開催、ハイブリッド開催、オンライン開催について予算案を比較した結果、3会場を現地使用してその他をオンライン形式とするハイブリッド方式が収支バランスの観点から現実的となった。この場合、特別企画、シンポジウムを現地開催し、その他をオンライン開催する。また、感染防止のため各会場の収容人数を制限するほか、現地参加者がオンラインセッションへ参加するためのアクセス室も確保予定である。各開催形式について、現地開催の場合の会場費800万円に対し、ハイブリッド形式とした場合は会場費395万円となり、また、完全オンライン形式への急遽変更の場合でも基本会場費100万円の支出で済む。収支として、現地開催では90万円、ハイブリッド形式では65万円、オンライン形式では400万円程度の黒字であり、急遽ハイブリッド形式から完全オンラ

イン形式に切り替えた場合でも約 300 万円の黒字となる見込みである。

本件について、会場数、及び財団寄付収入の適切性について議論が行われた。また、想定される最悪の場合（ハイブリッド形式からオンライン形式への変更の上、更に参加者減となった場合）についても議論が行われた。昨年度の岡山大会での参加費収入から考慮すると 300-400 万円程度の赤字が考えられるが、基金で補填可能である旨が報告された。また、本件について、合同開催する生体磁気学会の承認が得られているかについて質問があり、生体磁気学会側に再確認する旨が報告された。

以上より、ハイブリッド開催について全会一致で承認された。また、生体磁気学会とのやり取りの中で追加審議の必要が生じた場合、1 月中に決定すべき内容についてはメールでの審議を、その他については次回理事会で再審議を行う事で決定した。

## 7. 生体医工学シンポジウム 2021 について【審議】 嶋津北陸支部長

生体医工学シンポジウム 2021 について報告された。2021 年 9 月 17-18 日開催で、今年度開催されなかった LIFE2020 (LIFE2021) との同時開催が決定している。新型コロナの感染状況から現地での口頭発表および遠隔発表のハイブリッド開催を検討中だが、その場合最大で約 160 万円の赤字となる。よって、開催時の情勢を考慮しつつ大学等教育機関の会場が使用可能であれば現地開催を検討している。今後、1 月中にホームページの立ち上げ、2 月中に開催形式を確定し、その段階で組織委員会を構成する予定である。

本件に関し、オンライン化の判断は 3-4 月に行う事が報告された。この場合、生体医工学シンポジウムあるいは LIFE のみのオンライン化は困難であるため双方で議論ののち決定する。また、昨年度のオンライン実施の際の支出削減について議論が行われた。

以上より、現地開催を追求し、オンラインになった場合は赤字軽減をはかりつつ開催する事を、全会一致で承認された。また、例年通り各種アワードの実施について全会一致で承認された。

## 8. ABE の掲載料有料化について/投稿規定の見直しについて【審議】 横澤理事

ABE の掲載料有料化について報告された。現在、和文誌「生体医工学」は有料掲載であるのに対し、英文誌「ABE」は無料掲載である。そこで、主に海外からの質の低い論文投稿への対策として、以下のように ABE の投稿規定を改定する。

- ・ First author または Corresponding author が生体医工学会会員の場合無料
- ・ 編集委員会からの依頼論文は無料
- ・ 上記以外の場合 300 USD

また、英文校正の見直しについても報告された。現在、採録が決定した論文は学会による英文校正を経て掲載されているが、経費節減のために今後、「生体医工学」については英文校正を行わないことで、10 万円程度の費用削減が期待される。

本件に関し、ABE の IF の向上に関して議論が行われ、ABE の掲載料有料化、及び「生体医工学」の英文校正の見直しについて、全会一致で承認された。

9. 専門別研究会評価委員会の立ち上げについて【審議】 原口理事

専門別研究会評価委員会の立ち上げについて、全会一致で承認された。また、現在評価委員会  
が3名体制であるため追加人員が必要であれば理事会より委員を指名する事が決定された。

10. 在宅人工臓器治療研究会（新設依頼）【審議】 木村副理事長

在宅人工臓器治療研究会の新設について、全会一致で承認された。

11. 術中MRI保険適応申請学会要望書に関して【審議】 村垣理事

術中MRI保険適応申請学会要望書に関する報告が行われた。日立製作所が、薬機承認を取得し  
た「術中MRイメージング装置 OPERADA Open」について、区分C2（新機能・新技術）の保険  
収載獲得に向け、厚生労働省医政局経済課に保険適用希望書案を提出して事前相談を重ねている。

本学会からの厚生労働省への学会要望書の提出について議論が行われ、全会一致で承認された。  
また、他学会と共同での要望書の提出を検討しており、要望書を提出した学会について次回理事  
会で報告される事で決定した。

12. 2020年度 選奨報告書の承認【審議】 清水北海道支部長

第59回日本生体医工学会北海道支部大会において選出された北海道支部研究奨励賞の受賞者  
候補2名について、全会一致で承認された。

13. 2021年度 各所予算案報告【報告】 中島一樹理事

各委員会の予算案について報告された。現状、予算案が未提出の委員会を含め、次回の理事会  
で承認し、内閣府に提出する事で決定した。

14. 2021年度 事業計画【報告】 山家理事

2021年度事業計画案について報告された。事業計画書も内閣府に提出する必要があるため、  
未提出の委員会を含め次回の理事会で承認する事で決定した。

15. 入退会状況の件【報告】 村垣理事

会員入退会状況について報告された。入会（正会員8名、準会員2名）、退会（正会員10名、  
準会員2名、逝去6名）のうち1名が、本来正会員登録される所準会員登録されており、本  
件について事務局で再確認する旨が報告され、その他については全会一致で承認された。

## 16. 管理項目追加の提案【審議】 村垣理事

新規会員登録・入会案内に関して、以下の追加設問と現行の設問の選択肢の追加が提案された。

- 追加設問 1: 希望所属支部の選択
- 追加設問 2: メール配信の受信希望
- 選択肢の追加: Q3. 資格の種類を職種へ変更し、選択肢に学生、企業所属を追加

本件について、1 項目の追加につき年間 2 万円の追加費用がかかる事が報告された。また、準会員の学生の卒業予定年月日情報も必要ではないかという意見が出された。

以上より、「準会員の学生の卒業予定年月日」を含め、計 3 つの追加設問と、現行の設問の選択肢を追加する事で、全会一致で承認された。

## 17. 代議員選挙結果の報告、理事監事役員選挙の実施報告【報告】 塩澤理事

2021・2022 年度代議員候補者選挙結果について報告された。また、理事監事役員選挙のスケジュールについて報告された。

## 18. 選奨委員会の承認【審議】 松村理事

選奨委員会の各委員構成について報告された。現在提出されている論文賞・阪本賞選定委員、及び新技術開発選定委員について、全会一致で承認された。また、研究奨励賞・阿部賞選定委員、及び臨床応用研究賞・荻野賞選定委員については委員構成が未提出である旨が報告され、3 月までにメール審議にて承認する事で決定した。

## 19. 教育委員会の承認【審議】 坂田理事

教育委員会の委員構成について、全会一致で承認された。

以上